

## 第6章 環境学習



### 1 現状と課題

#### (1) 子どもたちをとりまく状況

最近の子どもたちは、環境を守ることの大切さを実感として持つことのできないまま大人になってしまっていることが多いのではないのでしょうか。

それは、子どもたちが自然とふれあう機会が減ってしまったことや、そもそもふれあう自然自体も減ってしまったことと関係があるように思います。

また、地域に対する愛着や誇りといったものが地域に育まれていないと、身近な環境保全活動にはつながりにくいものです。その意味で、以前は近所でなにげなくかわされていた大人と子どもの会話や近所づきあい、町内会・自治会単位のまちづくり活動などが減っていき、いわゆる地域コミュニティが崩れつつあることも、子どもたちの環境意識に間接的な影響を与えているとはいえないのでしょうか？

このような状況を改善していくためには、おとなたちから子どもたちも一緒に自然を実感の中から学ぶことができる体験型学習の実践、普段の生活の中からふれ合うことのできる自然の維持・確保、コミュニティづくりへの積極的な参加を促すことが必要です。



第5回 TOKYO こどもエコクラブまつり  
(春日町リサイクルセンター 2004.2)

#### (2) 取り組みの状況

##### < 地 域 >

練馬区には今、2つのリサイクルセンターがあり、リサイクルセンターに学生が来るだけでなく、学校に出前をして環境講座を開いています。また、「遊遊スクール」を利用して、環境教育をしている環境団体があります。

しかし、区内の環境団体と学校の垣根を超え、地域のおとなも子どもも参加できる環境教育は行われておらず、そうした環境教育を地域で進めることが必要です。家庭、地域で気軽に学べる環境教育が行われているのなら、「取り組む」などと大げさでなく、できることからはじめられます。ま



検討会議主催の環境講演会  
( 関区民ホール 2004.2 )

た、それをきっかけにもっと深く環境問題を学びたくなった時、おとなも、子どもも学べる場があったなら、環境への思いはさらに深まると思います。「育った後、もう一度振り返ることができる」、「学びたい時、学ぶことができる、いつでも、どこでも環境教育」が望まれます。

また、このような地域での環境教育を区内各地で継続的に行っていけば、放置自転車やごみのポイ捨てに見られるように解決策がなかなか見出せない問題についても、区民の環境意識や行動も徐々に広がり、区民が一体となった「環境改善運動」につながるのではないのでしょうか。

### <学 校>

いま、学校には「基礎学力の向上」と「生きる力の育成」が強く求められています。そうした中で環境学習は、「総合的な学習の時間」での実践が望まれている課題のひとつとなっています。

しかし、総合学習には、指導要領も教科書もありません。そのため、幅広い分野から、いろいろな体験学習の経験を取り入れて、それぞれの先生方が効果的な環境学習を構成していかなければなりません。これは忙しさに追われる先生方にとって大変なことです。

そこで私たちは、人・物・資金・情報などの面から学校を積極的に支援していくプロジェクトを立ち上げ、環境教育のいっそうの充実に向けて協働していきたいと考えています。



大泉井頭公園にて

### <家 庭>

「環境にやさしく・資源は大事に」と 100%の人がアンケートに答えます。ところが「5割高くても環境にやさしいものを買います」という人はたったの4%です。欧米では約30%の人が「そうする」と答えています((財)

新エネルギー財団調査より)

自家用車による CO<sub>2</sub> 排出量の年々の増加が問題だと認識がありますが「マイカーの利用を減らして公共交通を乗りましょう」との呼びかけにもかかわらず、自家用車、しかも大型車は増加しています。「地球環境は危機的状況だ」と認識しているのに、なぜ行動に結びつかないのでしょうか？

それは何をしたらいいのかが分からなかったり、何か生活を切り詰めて、がまんをしないといけないのではないかと、思い込んでいるからではないのでしょうか。

また、環境に関する情報は数多く流れていますが、求められているところ、必要なところに届いているかということ、なかなかそうはいかないのが現状です。例えば こまめに電気を消してみる ごみをしっかり分別する 合成洗剤をやめてみる 塀をブロックなどから生垣に変えてみる

近距離は自動車をやめて歩いてみる、ということが地球環境にいいことだと知る事ができたら、環境行動の実践の輪があつという間に増えるのではないのでしょうか？

このため、家事や買い物といった日々の家庭生活中でできる環境教育を進めていくための 情報提供、 地域、親子で学べる学習機会の創出、環境グッズの提供、 環境行動へ踏み出す動機づけとなるようなしくみづくりなどが必要といえます。

## 2 プロジェクト案

環境学習をすすめていくための具体的なプロジェクトとして以下のプロジェクトを提案します。

外部との連携・協働による『環境教育支援』プロジェクト

(目的) これまでの環境教育や活動は、学校・区・環境団体などが独自に取り組む例がかなり多かったが、これからは多くの人々や環境団体・企業・区・大学・学校などが力を結集して、より成果の上がる環境教育を実現していく。

(組織) 個人会員・団体会員を募集してNPO法人として運営していく。

(活動内容)

環境教育の支援と環境に配慮した施設づくり

自然体験学習の支援

世界の子どもたちとの環境活動の交流とリーダーの育成  
地域の環境向上活動を目指した実践教育の支援とリーダーの育成  
区民の環境意識向上と実践行動促進の支援

### 3 区民環境行動方針検討会議が考えるプロジェクト案

以下に、環境学習に関わる、私たち区民環境行動検討委員会の各分科会が考えたプロジェクトを列挙します。

( )内は第1章から第5章までの環境分野を示しています。

#### ○自然教育・・・自然とふれあい、自然を学ぶ

- ・区内の一斉自然環境調査（自然環境）
- ・白子川での湧水、水生生物の調査、環境マップ作り（自然環境）
- ・石神井川での自然観察（自然環境）
- ・学校ビオトープづくりと管理（自然環境、まち環境）
- ・自然体験学習の支援（自然環境、まち環境）

#### ○消費者教育・リサイクル教育・エネルギー教育

##### ...ライフスタイルの見直しを促す教育

- ・有害物質の及ぼす影響を知る教育（くらしと有害物質）
- ・P R T R法の公開学習会の実施（まち環境）
- ・学校での省エネナビ設置（エネルギーと環境）
- ・ソーラークッカー作り（エネルギーと環境）
- ・ペットボトル温水器の設置（エネルギーと環境）

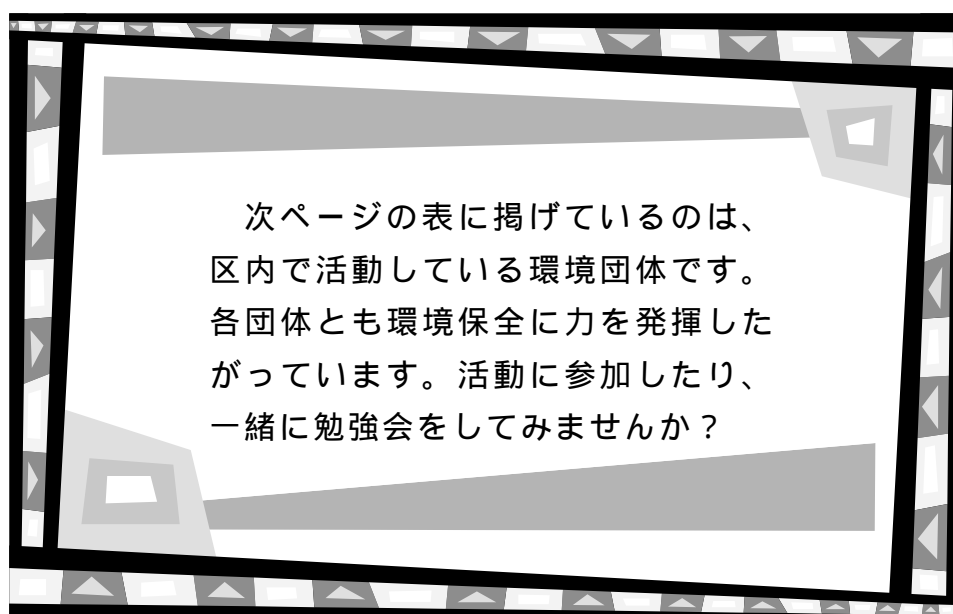
#### ○実施のための施設、組織づくり、支援の関連

- ・環境センター、学習室の設置（ごみと資源）
- ・民産官学協働の「環境教育支援プロジェクト」設立（まち環境）
- ・環境教育人材バンク設立とリーダーの養成（まち環境、ごみと資源）
- ・ボランティア組織作り（ごみと資源）
- ・エコスクールづくりの支援（まち環境）
- ・世界の子どもたちとの環境活動の交流（まち環境）
- ・まちづくりファンドの創設による助成と支援（まち環境）

## ○その他

### < 環境アイデアコンテスト >

- ・ 環境美化コンテスト（まち環境）
- ・ ごみの発生抑制・出し方・分け方アイデアコンテスト（ごみと資源）
- ・ 自然環境配慮促進のためのアイデア募集（自然環境）
- ・ 環境教育優秀校の表彰やコンクールの実施（まち環境）
- ・ 地域景観賞の創設（まち環境）
- ・ 不法投棄防止のアイデア集（まち環境）



団 体 名	連 絡 先	
	氏 名	電話番号（メールアドレス）
石神井公園野鳥と自然の会	金澤 伸行	3990-6736
八の釜憩いの森を守り育てる会	渚 忠尋	3923-6039
NPO 法人練馬まちづくりの会	富田 杏二	3931-6213
練馬に自然を育む会 （ベルディ・セッテ）	赤塚 茂夫	3937-1226
ホトケドジョウの会 （ふれあい広場の会）		fureaihiroba@aol.com
練馬石神井川かるがも友の会	上原 勝直	3990-2244
ねりま・みどりと花の会	江口 満	3993-4867
実のなる木を育む会	出川 芳信	3970-6770
光が丘エコクラブ	宮澤榮太郎	3939-1359
ねりまエコ・ネット	松岡 直子	3928-0671
白子川源流・水辺の会	本田 純	3924-9181

ここに掲載した団体は、「練馬区環境活動団体紹介制度」により区に登録されている団体です。個々の登録団体の活動内容については、環境保全課、春日町リサイクルセンター環境学習室の資料をご覧ください。練馬区の環境ホームページ「ねりまのかんきょう」で調べることもできます。

区への登録を希望する団体は、「環境保全課」の登録要綱の要件を満たせば、いつでも登録できます。

また、ここに掲載されてはいませんが、地域で活動している団体も多数あります。

### 区民の環境学習を支援している行政機関や施設の例

練馬・石神井清掃事務所（ふれあい環境学習）

練馬 （3992）7414      石神井 （3928）1353

関町リサイクルセンター・春日町リサイクルセンター

関町 （3594）5351      春日町 （3926）2501

練馬区環境保全課環境学習室（春日町リサイクルセンター内）

（3926）2502

東京都環境パートナーシップコーナー（東京都庁内）

（5388）3466

地球環境パートナーシッププラザ（国連大学内）

（3406）5180

省エネルギーセンター

（5543）3011